

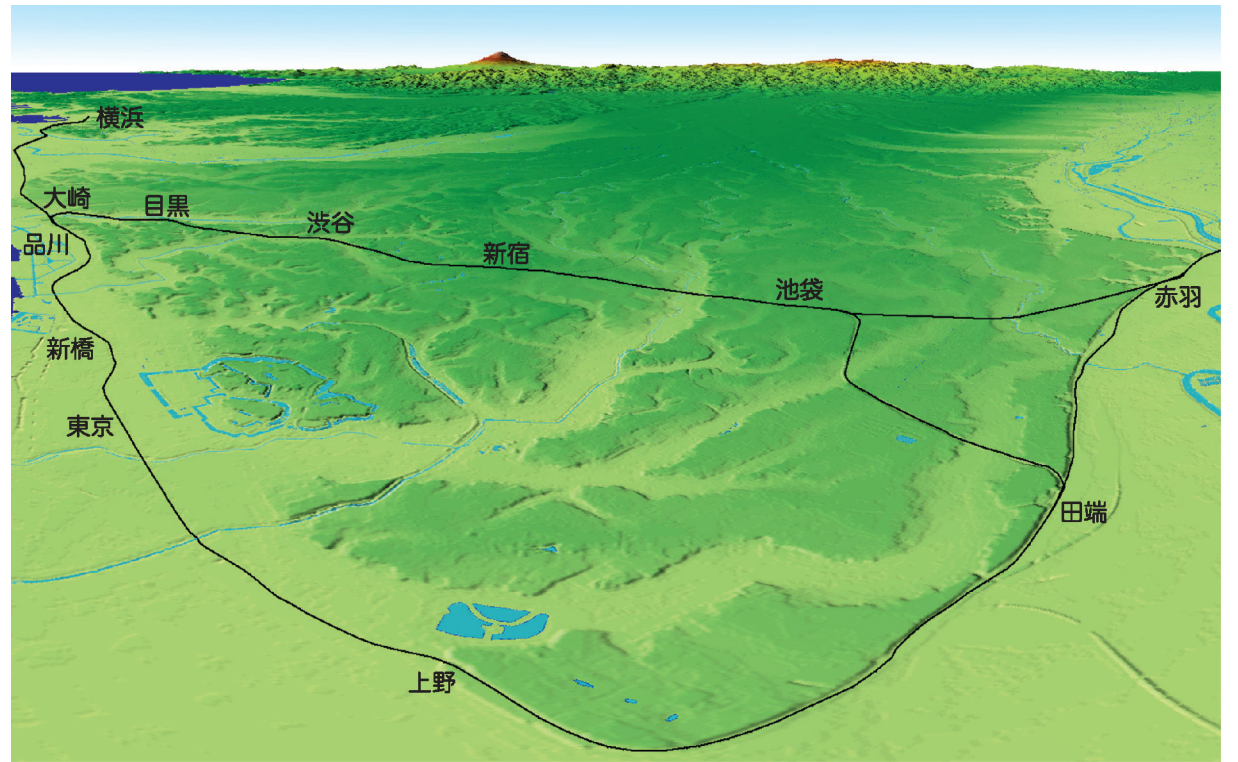


恵比寿ガーデンプレイスよりJR恵比寿駅を望む

江戸時代に町並みがつくられた下町に対して、明治の新政府になっても、丘陵地帯の山の手には、まだ農地が広がっていた。ここ、東京の西側に鉄道を走らせるといふ、「日本鉄道品川線」の敷設は、実は、「東海道線」の起点であった新橋、品川を、すでに高崎まで開通していた「東北線」とつなぐために計画されたものであった。

「日本鉄道品川線」・・・山手線の誕生

して東京の山手を通る路線が開通したのは、明治十八年（1885）だった。



カシミール3Dで作成しました



山手線の誕生の物語

環状の「山手線」は、ラッシュ時には二分間隔という過密なスケジュールで運行されている。通勤客によって混み合う朝夕には、車体が乗客によって膨らむのでは、と思われるくらいで、大量輸送には大きな貢献を果たしている。

一方、明るいグリーン（うぐいす色）の車両は乗客の目を癒し、ぐるりと回れば、また元の駅に戻ってくる筈だという安心感が脳裏をよぎると、「山手線」の乗客はほっとする。

最初は計画されていなかったのに、何故か路線が円くなつて、東京の大動脈となつていった環状運行の「山手線」は、世界的に見ても較べるものが無い、利便性の優れた鉄路である。

明治新政府が新橋〜横浜間の鉄道を開業したのが明治五年（1872）で、品川〜赤羽間の路線でスタート

「東海道線」は、国が計画した日本全体の鉄道幹線網の筆頭であり、「東北線」は、国との協調で活動しはじめた民営の「日本鉄道」のもので、「日本鉄道品川線」（品川〜赤羽間）は、相互の合意を基本として建設された。明治十七年（1884）着工、翌十八年には開通した。これが、事実上「山手線」を誕生させたのである。それから四十年、その間いくつものプロセスを経て、大正十四年（1925）、ついに現在の環状「山手線」ができた。以下、ときを追って、山手線敷設の歴史を振り返ってみよう。